

現在、午前8時15分。晴れています。でも、寒気の影響で、風が冷たいです。それでも、太陽の光は偉大です。気持ちを明るくしてくれます。ありがとうございます。

教職研修11月号の特集1で、本田賢広（株式会社セブンフォールド・ブリス代表取締役）氏（以下、氏）が、自らをモチベートできる自律型人材となるために、「なりたい姿」や「やりたい」に気づくことが不可欠であり、この気づきをサポートするとき、受容的な「対話」が大きな役割を果たすと語っておられます。

氏は続けて、「会話」とは二人あるいは少人数で向かい合って話し合うことであり、「対話」も二人で言葉を交わしますが、「お互いの価値観の違いを尊重し、受け止め合う」点において深みが異なると話されています。そして、どんな上司に心を許し「対話」することができるかについて、6つの例を挙げてくださっています。

- こまめに仕事以外の雑談もしてくれる。
- 無理に同意はしないが、「そう感じるんだね。もう少し教えて」などニュートラルに受けとめてくれる。
- 自分の価値観でよくないなど決めつけず、「そう考えるルーツは何だろう？」など寄り添ってくれる。
- 将来伸びる可能性を信じてくれ、他人と比較しない、再チャレンジの機会をくれる。
- 未熟な意見も聴いてくれ、悪評価せず協働的に気づきを得ようとしてくれる。
- 人生の主人公として、応援するように聴いてくれる。

納得、反省、自戒の私です。